

視 座

スポーツとショービジネスのはざままで

宮城県医師会理事

篠原 大輔

はじめに

スポーツと聞いて皆様はどのような競技を思い浮かべるでしょうか？ご自身で経験されていた競技の他には、野球やサッカー、バスケットボールなど県内を拠点とするプロスポーツなどがまず浮かぶのではないかと思います。しかし、今回はモータースポーツというニッチなスポーツの世界の話をさせていただきます。

世界三大レースと言われるF1モナコグランプリ、インディ500、ル・マン24時間レースなどは名前くらいなら聞いたことがあるという方も多いのではないかと思います。日本国内でどのようなカテゴリーのレースが開催されているかを知っているという方は相当なマニアではないかと思います。

私自身は幼少期よりのモータースポーツファンであるとともに、日本医師会健康スポーツ医、日本スポーツ協会公認スポーツドクターの資格を取得しており、それらの資格更新に必要な実践活動の場の一つとして、スポーツランドSUGOにおいてサーキットドクターとしてメディカル業務に従事しております。日頃サーキットからの搬送依頼を受け入れていただいている各医療機関の皆様には深く御礼申し上げます。

モータースポーツの特異性

モータースポーツには他のスポーツ競技とは違った特異な点が挙げられます。まず、一般的なスポーツの多くは自分の肉体や自然から得られるエネルギーを利用して争われますが、モータースポーツではエンジンから動力を得たマシンを使用します。

また、マシンについてはまったく同一のマシンを使用する場合もあれば、F1のように一定のレギュレーションのもとに独自に開発されたものを使用することもあり、F1などでは開発能力の差や資金力の差が性能差となって結果に大きく影響します。当然ながらレーサー自身が導き出す細かいセッティングの違いによっても性能差が生じますが、電子制御をはじめとするデバイスの進化によりレーサー自身のコントロール以外のところで性能差が生じることも多くなっております。それでも時速300kmをこえるマシンを操るレーサー達は特別な能力を持ったアスリートであることに疑いの余地はありません。

スポーツとショービジネスという二面性

モータースポーツが開催される意味には他の競技以上にビジネス的な側面が強くあります。モータースポーツの黎明期には、レース活動費を得る手段の一つとして市販車を販売していたメーカーも多くありましたが、昨今ではモータースポーツに参加することでブランドイメージを高め、自社製品の販売促進につなげたいという思惑があります。

世界選手権や全日本選手権を戦うトップレーサーは紛れもないトップアスリートであり、海外ではレーサーがチーム内で最もリスペクトされた存在として扱われていますが、日本国内においてはレーサーよりもメーカーの立場のほうが強いというのが現状です。メーカーの思惑だけでなく、レースの主催者やプロモーター、スポンサーなど多額の資金が動いている中であって、レーサーはスポーツ選手であると同時に多額のスポンサーマネーを背負った走る広告塔でもあります。

そうした中においてはレーサーに怪我などがあっても、興行のためにスター選手はなるべく走らせたいという思惑が前面に出てくることもあります。モータースポーツにおいては、ひとたび事故が起これば高エネルギー外傷や多発外傷となる危険を常にはらんでいるにも関わらず、誰がどのようにしてレーサーを守るのかが明確ではないのが現状です。



モータースポーツメディカルの役割と課題

一方で、モータースポーツの現場でのメディカル側にもレーサーを守るのに十分な体制確保ができていないわけではありません。サーキットでのメディカル業務において人員配置が不十分と感じる場面がありますし、JATECに則した外傷診療を行おうにもレントゲンやCTは用意がないので、メディカルセンター内の限られた設備だけで対応しなければなりません。

また、脳震盪の取り扱いについては選手権ごとに一定の基準があるものの、SCAT5を用いた評価や、競技復帰に向けたプログラムなど詳細については明確には定められておりません。怪我から競技復帰する際にはメディカルチェックを行っておりますが、共通した判断基準がない中で各サーキットドクターが出走可能かの判断を行っているのが現状です。

そうした状況を改善すべく国内の各サーキット間でのメディカルの連携をはかり、国内サーキット共通で使用する基準を作成すべくメディカルスタッフが有志で動き始めたところです。サーキットドクターはレーサーが広告塔ではなくアスリートであるという視点に立ち、医学的に競技参加が可能かどうかを判断する義務と責任があると考えております。

一般診療とモータースポーツの関わり

このように特殊なモータースポーツが一般診療と縁遠いところにあるかということもそうとも言い切れません。全国の各サーキットではアマチュアレーサーや若手レーサーが参加する地方選手権や走行会などが頻繁に開催されており、最近ではサーキット走行を行うアマチュアレーサーの高年齢化という問題があります。

持病の発作や脳卒中など突然の体調の変化があればマシン操作に重大な影響を及ぼし、本人のみならず走行中の他の選手の生命に関わる事故につながる危険があります。例えばバイクレースの最高峰であるmotoGPではレース中にライダーの心拍数は200近くまで上昇します。地方選手権の参加者が実際のどのくらいの緊張状態にあるかというデータはありませんが、持病を抱えたアマチュアレーサーがレース中に極限状態にさらされることを想定して普段から慢性疾患の管理を受けているというのは稀なケースではないかと思えます。

これからの時代は、サーキット側に各レーサーの健康状態の把握が求められるとともに、日々の健康管理を行っている主治医もレースへの参加の可否を判断しなければならなくなる可能性があります。アマチュアレーサーであってもサーキットを走行する際にはプロレーサーと同様かそれ以上の極限状態に置かれるのだということをご理解いただければ幸いです。そしてぜひ明日皆さんの目の前の患者さんに問いかけてみてください。「あなたはレーサーですか？サーキットを走りますか？」と。